

にしのつじ 大阪・西ノ辻遺跡

ら平安時代の集落跡が確認されている。第四三次調査では、弥生時代中期から後期、古墳時代の各遺構と同一面上で、奈良時代末から平安時代初頭の井戸・土坑・ピットが検出された。



(大阪東北部)

- 1 所在地 大阪府東大阪市東山町・弥生町・西石切町三丁目・南莊町・宝町
- 2 調査期間 第四三次調査 11000年(平12)五月～10月
- 3 発掘機関 東大阪市教育委員会
- 4 調査担当者 才原金弘・吉田綾子
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

西ノ辻遺跡は、生駒山地西麓部、標高七～一〇mの扇状地に立地す

る。本遺跡は特に弥生時代中期末から後期中葉の標式

遺跡として著名である。現

在までの調査で、遺跡の範

囲は東西約四〇〇m南北約

六〇〇mと推定されている。

今回報告する第四三次調査地から西方の第四二次調査地にかけて、奈良時代か

ほか、「△□□」や判読不能な資料が一点ある。いずれも土師器杯・皿に書かれている。この他に、須恵器杯・皿C、製塩土器などがある。

8 木簡の釈文・内容

- | | | | |
|-----|-----|-------------|-----|
| (1) | 「東」 | 50×875×36 | 061 |
| (2) | 「西」 | 245×1010×22 | 061 |
| (3) | 「西」 | 190×988×43 | 061 |
| (4) | 「西」 | 180×967×22 | 061 |

東側の横板の基底部より一一番目に(1)が、西側の横板の基底部より三・四・五番目にそれぞれ(2)(3)(4)が遺存していた。井戸の横板方向の最下段からの序数詞が墨書の数字と一致する。文字はいずれも木目と直交する方向に書かれている。これらは、現地で井戸を構築する際の順序を記した組上げ番付で、平城宮跡SE一六八Aに類例があるほか、長岡京跡にも類例がある（本誌第一八号）。

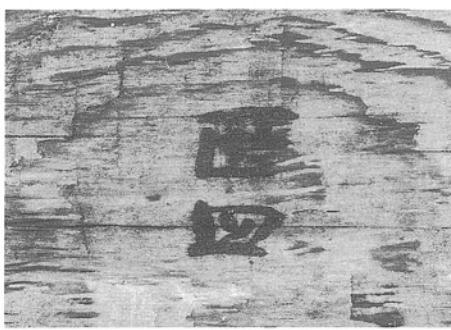
9 関係文献

東大阪市教育委員会「東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告
—平成二二年度—」（二〇〇一年）

（菅原章太）



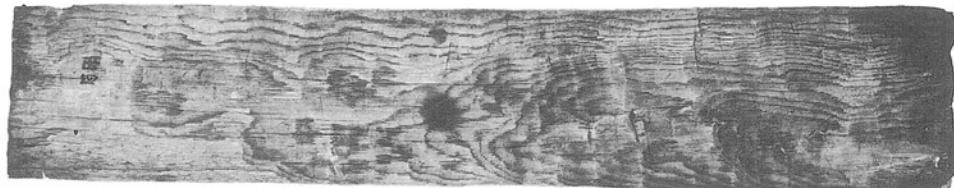
(2) (部分)



(3) (部分)



(2)



(3)